

＜アンケート一覧＞					
ID	あなたは？	報告(京都大学専多事報)をお聞きになって感想や コロナ禍でのこれまでの大学での流れと今後の可能性について、振り返る事ができました	委員ディスカッションや全体ディスカッションをお聞き コロナ禍で一気に進んだメタバース(仮想空間)により今後のキャンパスライフはどのような形になるのか。キャンパスが不要になるのではないか。その中で大学生協は必要なのだろうか。色々考える事ができました。	本日の研究会の運営(ライブアンケートも含む)について ブレイクアウトルームなどでお話出来る時間もあると良いと思います。	次回(テーマ:心身の健康、学生相談)報告をお聞き 心身の健康とはなにを指すのか。心の健康、身体 の健康について 理解を深める事が出来るかと 思います。
2	大学生協役員	これからの学びについてご説明いただき、とても理解がすすみました。「どこでも学べる」と「ここで学ぶ」のそれぞれの特色を意識しながら、学生の学びに生かしていきたいと感じました。	オンラインだからこそ自己開示が必要という発言は、オンライン下での学びを経験した学生だからこそ意見だと感じました。あらためて「今の学生の声を聴くことの大切さを感じました。」	特にありません。	コロナ禍で学生コミュニティの形が変わったのではないかと思います。学生さんの悩みや相談の内容がコロナ前とどのように変わってきたのか？また、その背景などについて関心があります。
3	大学生協役員	今まで漠然と聞いてきた学生の一方的な「つらい」「大変」という声以外の、大学という期間(真田:機関?)がコロナ禍にさらされどう対応したか、結果何をもらえたか	もちろん戦時中を経験した皆さんからすれば今のコロナという状況は大変でも何でもないと思うのですが、今時代は令和なのであつた時の方が大変だったよねという気持ちはわかりますがそれを今大変だと思っている人たちに押し付ける世の中になってほしくないなと思いました。	zoom中に手をあげる機能や、チャットで手をあげていきますという呼びかけがあったのになかなか気づいてもらえてない方がいたので意見の流し方や意思表示の方法は統一されると良いと思います。	2020年入学の3年生と、1-2年生の違いがアンケートで見えてきていますが、当面、コロナ下を成長期に経験した子供達が入学してきます。専門の方から見ても、もう少し長い目で心配されていることなどはあるでしょうか。(マスクが恥ずかしい小学生や、乳幼児が家族以外の口元や表情を見る機会が少ないこと等がコミュニケーションの取り方などで危険な状態といった報道を見たことがあります)
8	大学生協役員	「対面の利点」と「オンラインの可能性の追求」というお話、この点の議論が重要な点だと感じました。オンラインはツールとしてそれが学びに有効、ということが大変であり、決して「限がラクだから」ではないと思います。講義として、対面の利点と、大学という場自体が対面で人と会うことの本質としてちゃんと共通の価値を皆で確認したいと思いました。	初めに参加しましたが、学生と教員の方が同じ委員として会を重ねている、一緒に考えているのが良いなと思いました。		
9	大学生協役員	現状がよくわかり参考になった。	学生の本音が聞けてよかった	内容はできるだけ早めに、すべての大学に報告すべき内容だと思う。できれば、社会へも早めに。	留学生はコロナ禍で今どのような状態であったか。もし日本人学生と違うなら知りたい。
11	大学生協役員	2020年新学期はこの大学でも授業準備が大変だったかと思いますが、システムの増強が後期に間に合ったというはさすが京都大学だと思います。	半ば強引に進んだ授業のオンライン化が通過点となって、すでに新しい局面を迎えている。学生の授業への評価に教員が対応できているか、大学内で評価されているのでしょうか。授業料が高い、という学生からアンケートの回答にも現在の授業では「元が取れていない」と思っているのかも、と感じました。		
13	大学生協役員	普段生活・活動するだけでは見えて来ない「大学教授の目線」を通して大学生活を考えることで、視野が広がりました。			
17	大学生協役員	コロナ禍で講義のスタイルが大きく変わり、どのような学びのスタイルがきているか理解できた。一方で、コロナ禍で入学した学生に対し、すべての大学で十分なケアができたとは思えないと改めて感じた。どのような問題を抱えているのかアンケート等で調査を続けることが今後が同一様のことが発生した場合の備えになると感じた。 ・今後もテクノロジーを使った講義は進んでいくと感じるため、教職員のレベルアップは間違いなく必要と感じる。	・信州大学/高本先生のご質問で「オンラインに慣れなかったコミュニケーションが苦手な学生に」と対峙するようなサポートが必要かという質問に共感させられた。徐々に対面に移行しつつある中、教員がアウトする学生がいるのはそういった背景があったのかもしれない、職員として考えるべき事柄だと感じた。	特にありません。	
1	大学職員	コロナ禍におけるオンラインと対面授業におけるメリット、課題等が浮き彫りになり、とても興味深かったです。	各ディスカッションは、現場での課題や疑問、その解決策とストーリーや背景が明確で、とてもリアルな内容であると感じました。	特にありません。	学生のメンタルヘルスは学校運営の鍵にもなると思っています。ジェンダー、家庭環境等、様々な事情がある中で、より多くの事例や学生の生の声を聞かせたいと思います。
6	大学職員	オンライン授業へ移行されていったプロセスは、所属大学でのそれとの共通点が多く、参考になった。また、インフォーマルなつながりが難しくなることも共通していると感じた。	学生委員の意見がとても参考になった。次回も多くの学生たちの意見が聞けることを期待します。		
19	大学職員	お話を聞き、オンラインと対面の両方の良さを生かしつつ、学生のニーズを踏まえた教育が今後求められることを改めて感じた。	できることに限りはあると思うが、大学生協としては、大学と連携し、学生の教育をどのように取組んでいけばよいかの議論も必要だと感じた。	特にありません。ありがとうございました。	可能であれば、メンタルの学生に対する関わり方について、参加する大学の教職員および大学生協の職員にアドバイスをいただければと思います。
12	大学教員	とても素晴らしいかったです。学生からの回答に対して、短期間で返信をしながら、次の課題を出す。生徒、先生双方で大変だとは思いますが、コロナ禍でも確実に学生は実力をつけていけるシステムが出来上がっている様子が感動すら覚えました。先生がワードで執筆された原稿を無償配布しているという、驚きました。	学芸大学の学生がレポート提出するにも、他の人の情報が入らず、苦労していたとの話に気の毒に感じました。本来ならキャンパスで語らないうちで得られる情報すらもろろ、一人で頑張っている様子が伝わってきました。そして、受け取る側の教員もまた、レスポンスに悩んでいたことに共感を得ました。	特にありません。	アルバイト収入で奨学金の返済を予定していた学生が居たと思いますが、コロナ禍でそのような学生はどうやって苦難を乗り越えたのでしょうか？サイト上の悪質なアルバイト商法に騙されていないかと心配です。親からの仕送りが不足する学生はどのようにして生活を維持しているのか、生の声を聴かせてもらいたいです。
18	大学教員	たいへん参考になりました。もう少し詳しくお話を伺いたかったのですが時間が短かったように思います。	「教科書はオープンに」LMSとの関連性についてはもう少し掘り下げてお伺いをしたかったです。	ご案内では「発言は委員の方に限る(優先だったか？)」とのことでした。質問を控えました。チャット等では質問をしにくいので、進行役の先生が「どなたも発言がないので、ご指名をして質問」との進め方でしたので、特に「委員に限る」としなくても良かったと思います。なにか不都合があるのかもわかりませんが...	
20	大学教員	時代に合わせた授業の仕方に変化させるにあたって、様々な影響を考慮して、それに伴う学生へのフォローが大切だと感じた。また、LMSをどのように使うかが重要だと感じた。	自分の所属する大学以外の委員の方からさまざまな興味深い話を聞けてよかった。特に、先生からのフィードバックが欲しいという意見は、私も同じ意見を持っていて、自分の今後の勉強に生かすことができるので、一人一人丁寧なフィードバックは嬉しいと感じた。	特にありません。	最近では、心の病について焦点が当てられてきたが、それに伴う学生の相談内容の変化やどのような制度が普及してきているのかの利用されているのか聞きたいです。
5	学部1年生	突き詰めると、大学のあり方が問われる課題だと思いが、その一方で名物講師のいない大学の存在意義がなくなる時代がすぐそこにある気になりました。	情報を共有するには、オンラインで十分だし、自分の好きな環境で聞けることはメリットが大きいと思います。その一方で、ディスカッションしたり、プレイスをするにはその場の空気がわかるリアルに向いています。企業はそこを使い分けていると思いますが、大学の授業がリアルな価値を創出しなければ、大学に行く意義がなくなるかとも思いました。	先生の基調講演に対する学生の意見をもっと聞きたかったです。最初に3人くらい発言者の学生を決めておいた方が良かったかもしれません。	コロナ禍で先輩や友達が少ない学生が就活のプレッシャーなどでメンタルになるのが心配です。
14	メディア・マスコミ	考えるヒントが多く、参考になった。	学生さんの意見が積極的によかった。		障害学生の大学教育の具体的な実践例
16	メディア・マスコミ	「どこでも」から「ここで」学びに最適な場所を見極めるといふ報告に、企業での人材育成でも同様だと、とても参考になりました。			
4	その他	これまでのおかれている環境や、今後の教育のIT化やオープン化なども参考にしたいです。	学生の就活支援や企業の採用支援をおこなう上で役立つ情報に感じました。	特になし	特になし
10	その他	学生が勉強すべき時間が設定されている事実を初めて知りました。それも含め、新たな発見、気づき等もあり、大変興味深い内容でした。	大学側、教員、事務職員側として、これから考え、得るべきを見据えて実行していく事項と、目の前の2022年(真田:2020年?)入学の現3年生にどう対応していくのか、両面両方のようなバランスで臨んでいるのか、悩ましい問題と感じました。	学生さんに発言を求めるとき、ポイントを絞って意見を求める場合も良いですし、単純に感想を述べてもらおうというの、よいかと思いました。今日の専多さんのお話を聞いて、単純に感じたこと、思ったことを聞いてみたいと思いました。	自分は学生の相談を聞いて、アドバイスするような立場にはないのですが、学生から話を聞いたり、万が一にも相談されたような際は、どのように対応すればいいの、素人なりにどうしたらいいのかの指針等を得られると、嬉しいです。
15	その他				